

# 世界をつなぐ、 世界をつつむ



【YKK株式会社】

創業 1934(昭和9)年1月1日  
 資本金 119億9,240万500円  
 従業員 3,400名 2007年12月末日現在  
 製造品目 ファスニング製品、精密機械・装置・金型  
 本社 〒101-8642 東京都千代田区神田和泉町1  
 TEL 03-3864-2000  
 工場 黒部工場、黒部牧野工場



ファスニング事業グループ

ファスニング事業グループは、世界市場でトップシェアを誇るファスナーをはじめ、スナップ・ボタンや繊維・樹脂製品などさまざまなファスニング(とめる・つなぐ)商品を提供しています。その用途は、衣料品だけでなく、靴や寝具、さらには医療分野や産業資材といった新分野まで多岐にわたっています。

工機事業グループ

工機事業グループは、YKKグループの生産技術や研究開発の要として、グループが長年つちかした技術とノウハウを結集し、独自の生産機械、システム、金型などを世界各地のグループ工場へ提供しています。お客様に最高の品質をお届けし、それを保証するための「一貫生産体制」を「新たな価値を創造する技術集団」として支えています。



【YKK AP株式会社】

創業 1957(昭和32)年7月22日  
 資本金 100億円  
 従業員 13,200名 2007年12月末日現在  
 製造品目 建材製品  
 本社 〒101-8642 東京都千代田区神田和泉町1  
 TEL 03-3864-2200  
 工場 東北事業所、黒部事業所、滑川事業所、四国事業所、九州事業所

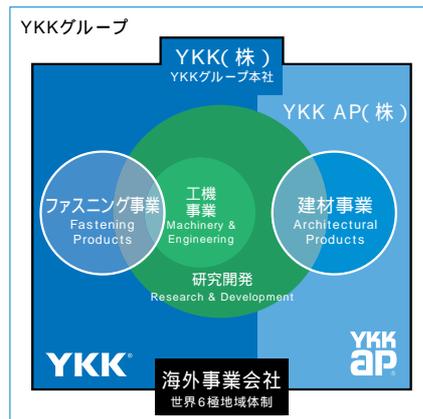


建材事業グループ

YKKグループの建材事業を担うYKK APは、多様化・個性化する建築物のさまざまなコンポーネントを通じて、建物の価値を高めていくことを事業活動の目的と捉えています。より快適な住まいや街づくりに貢献するために、窓とドアができることをつねに考え、さまざまな取り組みを進めています。環境配慮と快適性の両立を目指した的確な商品開発力と、独自のシステムによる一貫生産体制が、業界トップクラスの品質を支えています。

【YKKグループ】

グループ会社 世界70カ国・地域 118社  
 国内 22社  
 海外 96社(海外拠点数 270拠点)  
 従業員 40,000名  
 (国内19,000名 海外21,000名)  
 2007年12月末日現在





## YKKグループ経営理念

更なるCORPORATE VALUEを求めて



## YKK精神 「善の巡環」 他人の利益を図らずして 自らの繁栄はない

企業は社会の重要な構成員であり、共存してこそ存続でき、その利点を分かち合うことにより社会からその存在価値が認められるものです。YKKの創業者吉田忠雄は、事業をすすめるにあたり、その点について最大の関心を払い、お互いに繁栄する道を考えました。それは事業活動の中で発明や創意工夫をこらし、常に新しい価値を創造することによって、事業の発展を図り、それがお客様、お取引先の繁栄につながり社会貢献できるという考え方です。このような考え方を吉田忠雄は『善の巡環』と称し、常に事業活動の基本としてまいりました。私達はこの考え方を受け継ぎ、YKK精神としています。



## YKKグループの事業活動の 根底にあるもの

YKKグループは、ファスニング事業と建材事業を2つの中核事業として、日本を含む世界約70カ国/地域で事業活動を行っております。

YKKグループは、あらゆる経営活動において「公正」を価値基準として、お客様に喜ばれ、社会に評価され、社員が誇りと喜びを持って働ける会社でありたいと考えています。

その実現に向けて、YKKグループでは、創業75年、さらには次の創業100年に向けてYKKグループの更なる成長と発展を図るため、「事業価値の更なる向上」と「ブランド価値の確立」に取り組んでいます。

YKKグループは「安心してお付き合い頂ける会社」「真に国際的な会社」「新たな価値を創造する技術の会社」として認知して頂ける企業を目指し、これからも事業活動を推進してまいります。そのためにも、コーポレートガバナンス体制の強化を図ると同時に、コンプライアンスに対する取り組みを強化し、良き企業市民として求められる責任を果たしてまいります。皆様の忌憚のないご意見・ご指摘をいただければ幸いです。

2008年 7月

YKK株式会社 代表取締役社長

吉田 忠裕





無料健康診断を受ける順番を待つ地域の方々（ Bangladesh ）



## 地域社会への貢献に対する YKKグループの考え方

YKKグループの企業活動の根底には、“他人の利益を図らずして自らの繁栄はない”という『善の巡環』の精神が貫かれています。この精神のもと、本業を活かした社会貢献から、本来の事業活動から離れた教育や地域の活性化、そして国際交流のバックアップなど、さまざまな活動にも積極的に取り組んでいます。YKKグループがいつの時代も地域に愛され、社会に愛される企業でありつづけるために、これからも新しい文化の創造に貢献できるような活動を、地道に行っていきたいと考えています。

## 地域に根差し、社会とともに

YKKグループは、徹底した現地主義を採用し、地域社会の一員として事業活動を推進し、地域の活性化や教育、そして国際交流のバックアップなど、さまざまな活動に積極的に取り組んでいます。

## 地域貢献活動

産業医による、工場近隣地域の住民への無料健康診断サービスを行なっています。



Bangladesh



India



Philippines

地域の清掃活動に参加しています。



El Salvador



Korea



U.S.A.

地域の森林保全活動に参加しています。



熊本県 八代市



タイ



中国

教育支援

YKKグループは未来を担う若い世代を応援しています。



富山県 黒部市  
小学校で温暖化防止に関する授業を実施しました。参観日に実施したことで、家族での取り組みにもつながりました。



富山県 滑川市  
職場体験を通じ、規範意識や社会性を高め、将来像を考えることを目的とした、近隣中学の企業研修を受け入れています。



宮城県 大崎市  
大崎市 三本木地域とU.S.A.ダブリン市の交流をサポートしています。(ダブリンの学生が三本木小学校を訪問)



フィリピン  
近隣の28の小学校で環境に関する授業を実施するとともに、分別用のゴミ箱を寄贈しました。



ブラジル  
幼稚園で環境に関する授業を実施しました。



トルコ  
テキルダール ナムクケマル大学で環境マネジメントシステムについて講義を行いました。



中国  
中学生に対し、環境施設見学を実施し、環境問題の大切さを知ってもらいました。



インドネシア  
近隣地域の孤児へ奨学金による援助を行なっています。



U.S.A.  
近隣の高校の特別支援学級のサポートを行なっています。





## Social Development & Vocational Training Center( 社会訓練・職業訓練センター )の設立

インドでは、近年のインド経済の急成長により女性の社会進出の機会が多くなってきました。そこでYKKインド社では、近隣住民、特に社会的弱者であった女性の社会進出を応援したいとの思いから近隣の村長らとの協議の結果、インド社の工場敷地内に社会訓練・職業訓練センターを設立しました。

当センターでは、縫製・刺繍技術の習得、英語教育、コンピュータ技能の習得をすることができ、初年度は近隣2村から15名の生徒が入所しました。

今後は、インド社の工場スタッフのスキルやノウハウを地域の皆様に少しでも役立てていただける教育プログラムを、地域の皆様と一緒に発展させていきたいと思えます。



開所式



英語教育



縫製・刺繍教育



パソコン教育



さまざまな人に入出入りする状況を再現してもらい、日常生活での使いやすさを検証し、どのような状況でも使いやすい工夫へつなげています。



## 品質に対する YKKグループの考え方

YKKグループは、商品をご使用いただくお客様の立場にたって、品質へのこだわりをもった商品づくりを創業以来行っています。

これまでの品質への取り組みを更に発展させ、この私たちの思いをお客様と社会にお約束するために、品質に対する共通行動基準として『YKKグループ品質憲章』を2007年12月に制定しました。

YKKグループは、世界の全拠点で、商品、販売、アフターサービスなど全ての面において「お客様との信頼」を大切にし、お客様の立場での「品質へのこだわり」をもって、お客様と社会に心から満足していただける商品・サービスをお届けします。



## 生活者の視点で検証 ~ 価値検証センター ~

私達の生活に身近な窓やドア。

建材商品を安心して快適に使っていただくために、さまざまなシーンを想定し検証を行う価値検証センターを、YKK AP黒部荻生製造所内に開設しました。

商品には、「自然環境」「生活環境」「輸送・取り付け」が大きく影響しています。これらの状況を独自の装置や生活者モニターによる再現・検証を通し、その成果を商品開発に反映させています。

検証を通じて、多様化した生活スタイル・生活環境に対応した商品づくりに取り組むとともに、お客様の期待を超える新たな価値の提供を続けていきます。

### 実環境検証での検証事例

独自に開発した検証装置を使い、厳しい自然環境(風・雨・砂塵・温湿度など)や輸送・取り付け・使用環境(輸送振動・取付誤差・音など)を再現する検証を通じて隠れた課題点または実力を把握し、技術の確立を行い、商品開発につなげます。



暴風雨の再現

台風と同等の強風または雨の吹き付けを再現し、部材の強さ、水の浸入抵抗を検証。暴風雨などの脅威から暮らしを守る安全・安心な商品とします。



厳しい寒さ、暑さ、日差しの再現  
冬の酷寒、夏の酷暑・日差しを再現し、凍結状態の戸の動き、寒暑繰返しの部材伸縮または断熱性や遮熱性を検証。  
寒さ・暑さから暮らしを守る快適な商品とします。

### 生活者検証での検証事例

商品が実際に使われる状況を再現し、子供から大人、お年寄りの生活者モニターの方に商品を実際に操作してもらい、安全性、使い勝手、清掃性などを検証し、確認しています。

現在、生活者モニターには、100名強の方にご登録いただいています。



安全とデザイン  
新しい操作機構の商品の安全性と使い勝手を検証。  
意匠性を保ちながら安全に使える工夫をしています。



メンテナンスのしやすさ  
窓の拭き掃除や網戸の脱着をしてもらい、メンテナンスのしやすさを検証。  
生活者モニターからの意見を取り入れ、分かりやすい表示ラベルの工夫や改善をしています。



YKK深圳社では消防運動会を開催し、安全への意識向上を図っています。



## 雇用や安全・健康に対する YKKグループの考え方

YKKグループでは、「自律と共生」という人事理念のもと、社員一人ひとりがそれぞれの役割の中で自ら目標を設定し責任ある行動をする、そして会社と社員が一体となって企業価値を高めることを目指しています。また、すべての職場の危険有害要因の排除と働く人の心と身体の健康を保持増進し、時代にふさわしい働きやすい職場環境の形成を目指しています。

YKKグループは、企業目標の実現に向かって、社員一人ひとりが能力を最大限に発揮できるよう人事制度の運用や人材育成を行っています。

### 「公正」「納得性」のある人事制度の運用

YKKグループは、会社には多種・多様な役割があり、社員一人ひとりがそれぞれの役割で「プロ」になることが会社の企業価値を高めると考えます。

人事制度は、この多種・多様な役割を「公正」に評価・処遇するために、社員の担っている役割を「職群」という4つに分けてそれぞれの特性に応じた運用をしています。

モノづくりの会社として、技術者・技能者の専門分野での専門性や、製造現場・営業現場における業務の熟練度・習熟度も適正に評価することで、「公正感」、「納得性」を高め、社員のモチベーションアップを図っています。

#### 【職群】

マネジメント職群	組織のマネジメントを通じて成果を創出する
専門専任職群	専門的な知識やスキル、高い業務能力を発揮することにより、成果を創出する
業務職群	より正確・迅速・効果的に業務を実行して、組織目標の達成に貢献する
担当職群	より高い付加価値を生み出して、組織目標の達成に貢献する

### 社員の力を引き出す人材育成

YKKグループは、若いうちから積極的に責任ある仕事を任せ、目標を高く持って挑戦する人材の育成を行っています。

社員の力を引き出すために、OFF-JTにも力を入れています。将来の事業を担うビジネスリーダーを育成する『価値創造塾』では、1年間のプログラムでYKKの経営の考え方や経営に必要な知識・マインドを学び、最後には役員への経営提言を行います。

女性リーダーを育成する『リーダーシップ研修』では、女性社員の管理職への登用を目的とし、ビジネス知識を修得後、役員へ企画書の発表を行います。これまでに48名の女性が参加し、うち10名が管理職に登用されています。



女性リーダーシップ研修の風景

働きやすい職場作り

仕事と家庭の両立支援

子を持つ従業員が子育てをしながら仕事においても能力を発揮し、長期的なキャリア形成ができるよう支援しています。

「パパママ教室」の実施や「育児休業奨励金制度」の導入を通じ、女性だけでなく男性の育児休業取得を促進しています。その結果、2007年度は男性6名、女性262名が育児休業を取得しました。

また、次世代育成支援の取組みが認められ、2007年5月には厚生労働省の次世代認定マーク「くるみん」を取得しています。



高齢者雇用の取組み

定年退職者の知識や経験を活用するため、『定年退職者再雇用制度』を導入しています。2008年度は再雇用期間を64歳まで延長しました。現在、314名が制度を利用して働いています。



新米パパとママのための「パパママ教室」



近年、ワークライフバランスの実現が重要課題となっています。特に家庭や育児の問題は女性のみならず、男性にとっても同様であり、職場の理解も不可欠であることから、YKK AP東北事業所では妊娠中の女性および出産を控えた妻を持つ男性、職場の責任者を対象とした「パパママ教室」を実施しています。仕事と育児の両立支援制度の紹介や給付金など休業中の収入についての説明、今後のライフプラン検討のほか、従業員同士の情報交換の場ともなっています。

YKKグループ国内(2007年度実績) 2008年3月末現在

平均年齢		40.9 歳
平均勤続年数		18.8 年
男女構成比	男:	68.8 %
	女:	31.2 %
平均労働時間	YKK:	1,724 時間
	YKK AP:	1,728 時間
	その他:	1,514 時間
早期離職者数		571 人
有給休暇消化率		54.5 %
育児休業制度利用者		268 人
育児勤務制度利用者		131 人
介護休業制度利用者		8 人
定年退職者再雇用制度利用者		314 人



YKKグループでは、すべての職場の危険有害要因の排除と働く人の心と身体の健康を保持増進し、時代にふさわしい働きやすい職場環境の形成を目指し、全員参加でその具現化に向けて活動を進めています。

## 安全衛生

YKKグループでは、労働安全衛生マネジメントシステムの導入を図り、『危険ゼロ』を目標に、危険性・有害性の調査とその排除を進めています。

一方、安全衛生活動の3本柱である「人づくり、職場づくり、仕組みづくり」の内、「安全な人づくり」を目指して、KYT教育・エネルギーリスクアセスメントなどの一般教育、職長教育などの法定教育、VDT作業者などの特別教育を実施しています。

また、危険に対する感受性の希薄化が危惧される中、クレーン作業やフォークリフト運転などの「体感教育」を実施して、危険感受性の高揚と技能の向上を図っています。



フォークリフトの体感教育

## 健康の保持・増進

私たちの働く環境が大きく変わっています。生産技術の進歩や国際化の推進に伴い就業形態が多様化し、従業員の平均年齢も年々上昇しており、生活習慣病対策、ストレス性疾患や慢性疲労対策、海外赴任者のケアなど、健康管理として対応すべき課題も多岐にわたってきています。

## メタボリック対策

黒部事業所では、従業員の約2割がBMI 25以上の肥満者であり、特に40歳以上の男性では約3割を占めています。このため、産業医や専門スタッフ・THP専門委員会・YKK健康保険組合が連携して「健康教室」や「予防キャンペーン」を展開しており、少しずつですが成果をあげてきています。



減量プログラム『メタボ脱却スクール』



YKK香港社  
従業員の健康促進を目的として、香港・深圳西部道路完成記念のチャリティウォークに参加しました。



YKKボルトガル社  
屋外に喫煙所を設け、工場全ての建物内で全面禁煙を実施しました。

環境経営4つの約束

YKKトルコ社 エコプロダクツ・サービスの開発と提供  
YKKグループは、商品を通じて持続可能な社会づくりに貢献します



YKKバングラデシュ社 環境負荷低減経営の更なる徹底  
YKKグループは、事業活動における環境負荷の低減を徹底して進めます



YKKアルゼンチン社 グローバル環境経営システムの運用と活用  
YKKグループは、世界のあらゆる地域で『環境との調和』を最優先とした環境マネジメント活動を続けます



テープクラフト社(USA) 環境コミュニケーションの推進  
YKKグループは、環境政策を進める上でお客様との『対話』が最も重要であると考え行動します

YKKグループは、世界各国での事業活動がおよぼす環境負荷低減のために、4つの項目を中期環境経営基本政策と定め、それに沿った環境行動目標に取り組んでいます。

# 環境への取り組みに対するYKKグループの考え方

YKKグループは、1994年9月に『YKKグループ環境憲章』を制定し、グループ全社を挙げて環境対策に取り組んでいます。この環境憲章は、人類の豊かで健康な生活と環境との調和を目指し、企業活動のすべてにわたって環境の保全・改善に向けて行動することを基本理念に掲げています。

深刻化する地球環境問題への全地球規模での取り組みによる持続可能な循環型社会システムの実現が必須の課題となっています。

YKKグループは事業活動の全ての分野において、環境政策を組織的・戦略的に推進することによって環境経営体制を確立し、循環型社会の構築に寄与します。





YKKグループは、商品を通じて持続可能な社会づくりに貢献します。

## エコプロダクツビジョン

環境に配慮した商品(エコプロダクツ)を提供するためのビジョンを設定しています。

「**環**環境高性能」「**安**安全・安心」「**快**快適生活スタイル」の考えをベースに、7つの配慮を開発する商品に取り入れることで、商品を通じて持続可能な社会づくりに貢献していきます。



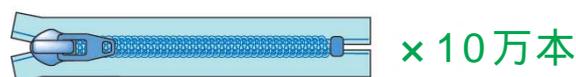
## エコプロダクツ 7つの配慮

- 1 「生態系への配慮」**環****安**  
自然環境や生態系を壊さない原材料の使用
- 2 「安全・安心への配慮」**環****安****快**  
アレルギーなどの健康問題に対応する工夫、有害な物質を含まない商品
- 3 「資源への配慮」**環**  
製造・流通・使用時のエネルギーや水など資源の使用量を削減する工夫
- 4 「3Rへの配慮」**環**  
リユース・リデュース・リサイクルなどゴミを減らす工夫、リサイクル原材料の利用
- 5 「長期使用への配慮」**環****安****快**  
長寿命設計、愛着づくり、修理のしやすさ、機能拡張性、アフターサービスの充実
- 6 「多様なライフスタイルへの配慮」**環****安****快**  
使いやすさ、ユーザ指向の生活価値の創造
- 7 「積極的な情報開示への配慮」**環****安****快**  
わかりやすい商品説明、顧客対応への工夫、環境情報提供の工夫

## ファスニング事業のLCA評価

ファスニング事業の商品および装置の開発において、エコプロダクツビジョンに基づき、独自のライフサイクル設計評価シートを設けています。省エネ・省資源・リサイクル・生態系配慮などの観点による評価点を算出、目標を設定し、材料や製造工程の側面から環境に配慮した開発を進めています。

また、環境対応商品のLCA評価によるCO<sub>2</sub>排出量の算出を進めています。商品の環境負荷量の明確化により、製造工程の削減効果を商品開発に反映させ、環境に配慮した商品の拡充を目指していきます。



60cmのリサイクルファスナーを10万本つくった場合  
(5CIH NATULON®)

経済産業省「繊維製品のLCA調査報告書」に基づいて自社試算

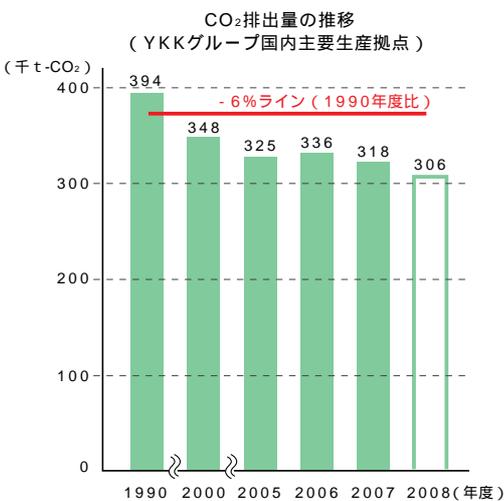


環境負荷低減経営

地球温暖化防止

YKKグループは、深刻化する地球温暖化の防止に向けて、温室効果ガスの排出抑制を重要課題の一つと位置づけ、積極的に取り組んでいます。

国内外の工場の新設や設備更新時の高効率設備の導入、工程改善、自然エネルギーの利用促進を推進するとともに、環境マネジメントシステムを軸とした省エネルギー活動を積極的に推進しています。また、「チーム・マイナス6%」に参加し、一人ひとりが身近にできる活動を考え実践しています。



YKK AP株式会社 四国事業所  
重油、灯油からLNGへの燃料転換を中長期で進めています。  
2007年から2011年までに、押出熱処理炉、ボイラー、熱風炉、溶解炉、均熱炉などの燃料をLNGにすることで、CO<sub>2</sub>を8千t削減できます。



YKK株式会社 工機事業本部  
熱処理ラインの焼入れ方法を変更することで、年間CO<sub>2</sub>を125t削減しました。



YKKイタリア社  
工場全ての蛍光灯(3570灯)に自動調光の装置を取り付け、自然光の強さによって節電できるようにしました。



YKKドイツ社  
断熱屋根にすることで暖房用の天然ガスの使用量を10%削減しました。

短時間染色技術を世界に展開

ファスニングにはテープやチェーンなどに色を付ける染色工程があります。染色工程では染色機の水を蒸気で高温・高圧状態にして染料で染色します。染色技術の改良やプログラムの見直しを図り、染色用蒸気を25%、染色排水50%を削減しながら染色時間も大幅に短縮しました。世界の染色工場へもこの短時間染色法を展開し、現在世界16カ国19工場で実施しています。

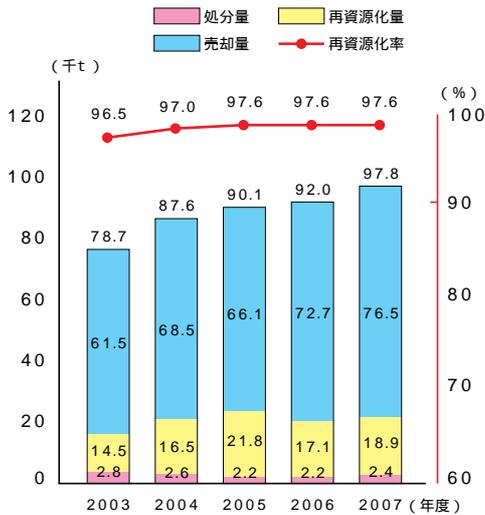




## 資源循環

廃棄物を資源と考え再資源化し、世界の全拠点でゼロ・エミッション達成に取り組んでいます。2005年度には国内の生産拠点でゼロ・エミッションを達成し、今後は廃棄物総排出量の削減や再資源化方法の質の向上を目指し、更なる環境負荷の最小化に努めています。

廃棄物排出量、再資源化率の推移  
(YKKグループ国内)



大連YKKジッパー社  
加熱減圧方式のリサイクル装置を導入し、洗浄用シンナーを90%回収。  
また、廃棄物が固形物となるため、廃棄物の排出量削減にもつながりました。



YKK台湾社  
排水汚泥を化学処理・高温処理混合発酵し、園芸肥料にリサイクルしました。

## 工場排水のリサイクル

今や石油と並び水不足が危惧され、世界的に水不足になってきています。また、東南アジアをはじめとして、貴重な淡水資源に対する各国の規制が強まりつつあります。

YKKグループは冷却水の循環利用や雨水の有効利用はもとより、工場排水をリサイクルし、再度、生産用水として使用しています。



YKK韓国社  
ファスナー表面処理排水の98%を回収し、表面処理用水として再利用しています。  
(2000年稼働開始)  
染色排水の50%を回収し、染色用水として再利用しています。  
(2007年稼働開始)



YKK深圳社 公明工場  
ファスナー染色排水の80%を回収し、染色用水として再利用しています。  
(2007年稼働開始)



YKK上海社 臨港工場  
ファスナーめっき排水の70%を回収し、めっき用水として再利用しています。  
(2008年稼働開始)

環境リスクマネジメント

法律や協定などの順守はもちろん、化学物質の適正管理、土壌・地下水・大気・水域への地域環境保全および環境事故の未然防止活動など環境リスクの低減に努めています

化学物質対応

～グローバルなグリーン調達管理システムの構築～

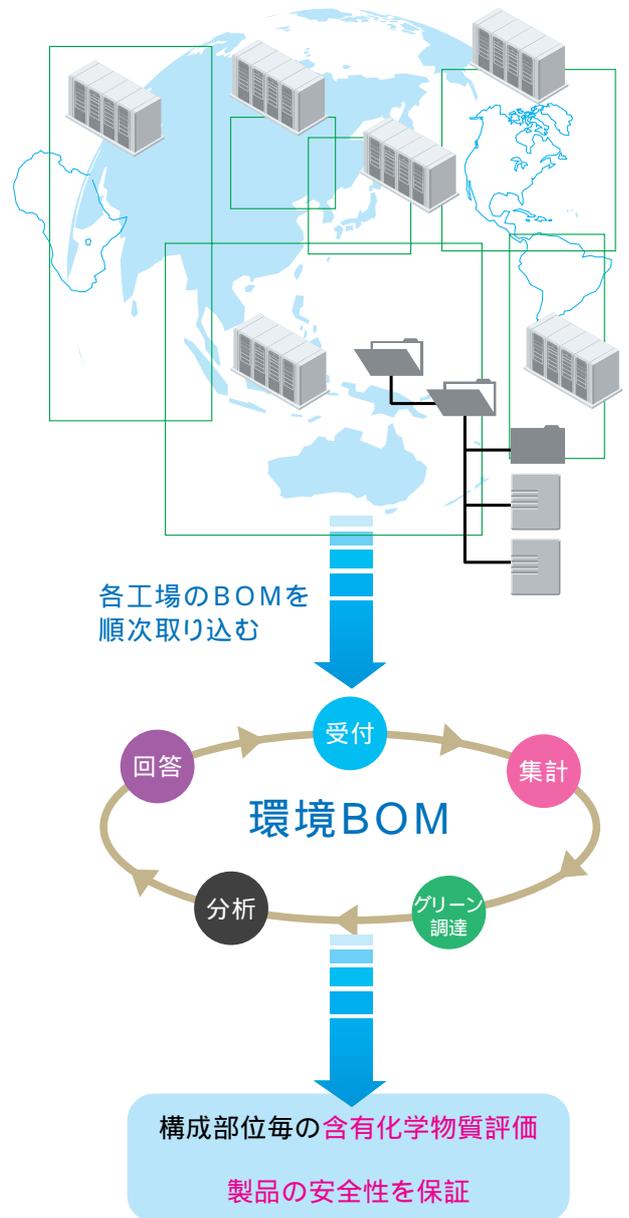
世界各国で取り組みが進んでいる環境問題への配慮や規制への対応や、顧客からの含有化学物質情報の提供要望に迅速に応えるために、製品を構成する一つ一つの部材が「RoHS指令」や「REACH規制」などの規制に対応しているかを把握できる、含有化学物質を一元管理するシステムを導入しました。

ファスニング事業では、日本国内を皮切りにYFGP( YKK ファスニング グリーン調達)システムを構築し、グローバルへの展開を図っています。このシステムは、製品の構成情報から展開される材料・副資材等の購入品に化学物質情報(購買先にグリーン調達調査を行い入手する)を結びつけ、環境BOM(製品に含まれる含有物質情報を展開できる部品表)を作ることで、製品安全の保証を支援しようとするものです。

～社内検査体制～

研究開発センターでは、購入品や自社製品中の有害化学物質の分析(RoHS対象物質のスクリーニング、微量金属の分析、臭素系難燃剤の定量分析など)を実施しています。また、これらの分析の信頼性を確保するために、(社)日本分析化学会による第三者認定の「分析技術者認定」資格を取得しています。

環境BOM( Bill of Material; 部品表)の構築  
製品 > 構成 > 材料 > 化学物質 ---- に展開





## 土壌調査

YKKグループでは、土壌保全是地域環境保全および土地資産価値の観点から、経営リスクマネジメントにおいて重要なものと位置づけております。

2002年度より、国内所有地において過去の利用状況調査や取り扱いのあった有害物質の履歴調査、また必要に応じて土壌の分析調査など、自主的な土壌調査を開始しました。2007年度末では、全国の所有地295カ所に対し、287カ所(97%)で土壌調査を完了しました。

今後は、2008年度までに国内所有地の汚染状況の調査完了を目指して、所有地の健全性の確保に努めると共に、海外拠点における土壌調査についても継続して取り組んでいきます。

## グループ環境経営監査

2007年度、工場単位の環境コンプライアンス中心の監査に加えて事業部の環境ガバナンスを確認する環境経営監査をスタートさせました。

環境経営監査はグループの環境管理における最高権威である環境政策推進委員会が実施するもので結果は取締役会に報告されます。

この目的は環境管理に関する認識と方向性の共有化にあり、本監査のステージを通じて事業部の環境管理レベルの向上に寄与できたものと考えています。

2008年度以降もグループ全体の環境管理レベルおよび環境コンプライアンスの向上を目指し、継続していきます。



環境監査風景(YKK AP株式会社 東北事業所)

## PCB含有機器対策

2001年にPCB(ポリ塩化ビフェニル)特別措置法が施行され、PCBを含有する機器については2016年度までの処分完了が義務付けられました。

YKKグループではこれらのPCB含有機器を、国内各地に設けた保管所にて、法に則り適正に管理・保管しています。また、黒部地区に保管している高濃度PCB含有機器については、国との協議の結果、本年度中に処理を行う予定となりました。他の保管機器につきましても、国や自治体と協議を重ねながら、処理計画に則り、適正に処理を行ってまいります。

## 環境経営の支援

調達先や外注先に対しても環境経営に努めていただくよう、セミナーの開催や技術的支援を行なっています。



YKKトルコ社  
外注先に対して、ISO14001と法規制についてのセミナーを行いました。

## 失敗しても成功せよ / 信じて任せる

社員に対する、人づくりにおけるコアバリューを「失敗しても成功せよ / 信じて任せる」としています。創業者吉田忠雄は、失敗を恐れず多くの若い社員に思い切って仕事を任せてきました。YKKグループの更なる成長・発展のためには、社員の挑戦意欲を高めることが必要であり、改めてこの考え方を実践していきます。

## 品質にこだわり続ける

お客様に対して、モノづくりにおけるコアバリューとして、「品質にこだわり続ける」を掲げています。YKKグループは、社会・マーケットの要望に対して、一貫生産の考え方に基つき品質にこだわりを持って商品を提供してまいりました。時代は変わっても、この考え方を大切にしていこう姿勢を明確にするために、YKKグループ品質憲章を新たに制定いたしました。

## 一点の曇りなき信用

社会との関係づくりにおけるコアバリューとして、「一点の曇りなき信用」を掲げています。YKKグループは、あらゆるステークホルダーから信用・信頼される会社であり続けたいと考えております。YKKグループでの信用・信頼とは、一般に言われる信用・信頼ではなく、一点の曇りもない信用でなければならないと日々引き継がれてきました。この考えを一点の曇りなき信用として表現します。



「社会との共生」と、「企業価値の向上」を実現しながら社員がいきいきと働くことが出来る企業風土づくりに力を注いでいます。

YKKグループは、YKKグループが大切にしている社員・顧客・社会に価値をもたらすものとして、3つの「コアバリュー」を定めています。これはステークホルダーの皆様に対して、社員一人ひとりが大切に、実践する価値観であり、日々の行動となるものです。



# 創

## 事業活動での取り組みについて

昨年YKKグループでは、「善の巡環」を今後とも永続的に展開するために3つの「コアバリュー」を定め、社員一人一人の価値観の再認識をはかり実践の指南を策定いたしました。創業当時では当たり前と思われていたYKK精神も、創業から75年世界各国で国籍を超えたビジネスを展開していれば、社員の間意識のずれ違いも起こることが考えられます。成果を三分配する、という基本の考え方が明文化され大変わかりやすくなりました。特に策定にあたって日本だけでなく、全世界の社員から意見や提案を聞き一緒に考えてきたプロセスは大切にしました。社員皆さんの拠り所となる基本観ですから、上から押し付けられるのではなく時間をかけて全員で納得しあえたことで、このコアバリューは皆さんの胸に落ちるものになっているでしょう。今後この浸透について、展開されていくことを期待いたします。

## 社会・環境報告書2008について

本年も報告の内容に海外の活動を多く盛り込み、YKKグループのグローバルでの地域・国でのCSR展開が伺えます。昨年コメントに関する対応をみるとともに、今年の特徴について下記コメントいたします。

### ・YKKグループ独自の従業員とのかかわりの視点

人事体制や安全衛生といった制度面、管理面での従業員対応だけでなく、人材育成についても様々な展開をされていることが今年強調されています。将来のビジネスリーダーとともに女性リーダーの育成という課題もきちんと捉えており、コアバリューの実践が伺えます。できれば、これらの育成プログラムの結果どれだけ社内のリーダーが育成され業務にプラスになったか、という成果がわかるといいです。成果といっても数値指標での把握にとらわれず、何かしらの計測をもって状況を把握・報告いただきたいと思います。

### ・世界での地域貢献

YKKグループの地域の視野は、早くから日本国内に限らず世界に向けています。今後は特に新興国での社会基盤の改善が世界経済の課題になっています。YKKでは昨年インドに社会訓練・職業訓練センターを設立され、地域のニーズに応える活動を発展されています。単に地域を援助するというだけでなく、地元の人材の自律を促す実践プログラムを展開することは、将来の経済発展につながる方策です。今後とも、地域貢献の活動とともに事業展開した国の将来へのベネフィットにつながる活動を継続的に展開してください。

### ・環境への取り組み

全世界でより深刻になっている環境問題に対し、これまで以上に対策を進めておられます。既に取り組んでいるCO<sub>2</sub>についても、基本的な燃料の転換によって大幅な削減を達成されました。燃料費高騰のなか、コスト削減にも貢献する対策です。またテープなどの染色工程では、その工程を根本的に革新することで水使用量を大幅に減少されています。このような各種の努力を、世界各国でこれからも続けてください。



海野みづえ

株式会社 創コンサルティング  
代表取締役 海野みづえ

#### プロフィール

千葉大学大学院修了後、経営コンサルティング会社勤務を経て、1996年(株)創コンサルティングを設立。  
ブラザー工業 社外取締役  
東京大学大学院、法政大学大学院 非常勤講師  
内閣府など官庁の各種委員も務める

みんなで止めよう温暖化  
チーム・マイナス6%

YKKグループは、チーム・マイナス6%に参加しています



## YKKグループ

YKK株式会社 / YKK AP株式会社

〒101-8642 東京都千代田区神田和泉町1  
URL <http://www.ykk.co.jp>

お問い合わせ先  
YKK株式会社 環境・安全衛生グループ  
〒938-8601 富山県黒部市吉田200  
TEL:0765(54)8160 FAX:0765(54)8149  
E-mail:kankyo@ykk.co.jp

発行:YKKグループ 環境政策推進連絡会 2008年8月

この印刷物は  
森林認証された  
用紙を使用して  
います



不要となった際は、  
古紙回収・リサイクルに  
出してください

